遊楽 彩祭

三谷市民文化振興財団ニュース

21 伝統的工芸品「若狭塗箸」
小浜藩の塗師が、貝や殻を漆と一緒に塗り重ね、研ぎ出すことで、小浜の美しい海底を表現した。

イベント情報

永平寺参ろーど禅ウオーキング

6月12日（日）受付10：00
旧京福電鉄永平寺線跡地
（えちぜん鉄道永平寺口駅裏より出発）
料金：500円（保険代含む、
400円分のお買いものチケット（当日限り）付き）

片道約6.0kmと、お子様から年配の方まで歩きやすいコースで、一部復元された線路や橋梁など、永平寺線を思わせる面影を感じながら、禅の里へいざなう遊歩道を「各駅停車」しながら歩いていただきます。沿線では、バザーや物産市も行っています。

問 永平寺町観光物産協会　☎0776-63-1188

夏季特別陳列「大坂の陣と福井藩」

7月22日（金）～8月31日（水）
開館時間9：00～19：00（最終入場18：30）
福井市立郷土歴史博物館（福井市宝永）
観覧料：400円
（常設展示210円、養浩館庭園との共通券340円）
※中学生以下、70歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその介助者は無料

伝真田幸村所用 采配 越葵文庫

平成27年に400年目を迎えた大坂の陣、今年は大河ドラマ「真田丸」も放映され注目を集めています。当館では、大坂の陣での越前松平勢の活躍と、この戦いに参陣した藩士の家に伝わった資料を紹介します。

問 福井市立郷土歴史博物館　☎0776-21-0489

第11回 越前市サマーフェスティバル

8月13日（土）～8月15日（月）
越前市 日野川河川緑地、越前市中心市街地ほか

1日目の「ふるさと踊り」では、毎年2,000人近い人が武生駅前の大通りを踊り歩き、越前市の夏を感じる賑やかな光景が広がります。2日目の「わっしょい越前」は子どもたちに人気のキャラクターショーや、よさこいなどの市民ステージ、飲食ブースやゲームコーナーなどが開催され、家族揃って楽しく過ごせるイベントです。3日目の「花火大会」は約1万発の花火が打ち上げられます。音楽に合わせて打ち上がるミュージック花火など、楽しい企画が多数あり、見ごたえたっぷりです。

問 ふるさと踊り……越前市商業・観光振興課　☎0778-22-3007
わっしょい越前…まちづくり武生株式会社　☎0778-25-6802
花火大会……（一社）越前市観光協会　☎0778-23-8900

恐竜ふれあい教室「親子で恐竜模型をつくろう！」

8月28日（日）13：00～15：30
福井県立恐竜博物館（勝山市）
講師：荒木 一成 先生（恐竜造形家）
対象：4歳～小3の親子 15組
申込：往復ハガキ、E-mailにて、7月28日から受付

恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。

問 福井県立恐竜博物館　☎0779-88-0001（代）

一般財団法人　三谷市民文化振興財団
〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1　三谷ビル
TEL：0776-20-3188　FAX：0776-20-3306

2016年5月発行　・このニュースに関するお問い合わせは、☎0776-33-7571（株）コミネットまで

YURAKU SAISAI

ふくいの無形文化財

音海（おとみ）のお的射（まとい）り　元日

毎年元日、音海区内の気比神社で営まれるこの神事は、「鍵渡しの儀」「シバの儀」「的射りの儀」の3つから構成されている。1年の豊作と平穏を願って、年の暮れからすす払い、飾り付けなどの準備が粛々と進められる。

神事のメインとなる「的射りの儀」では、放たれた矢が的を外れれば、集落は1年間安泰とされている。

高浜町 提供

（高浜町）

ふるさとめぐり

第八回　越前市

伝説

… 北府（きたご）不動明王（旧武生市）…

その昔、武生に大雨が降って日野川が決壊し、近くの村が一面水浸しになった。その雨で流れ着いたお不動さんを拾った男が、すぐ傍でお清水が湧き出ていることに気がついた。男はそのお清水でお不動さんを毎日綺麗に洗った。いつからか、お清水で痛いところを洗うと具合が良くなると噂が広まり、「水かけ不動」として祀られた。そのお清水は「極楽の1滴」と呼ばれ、また、長年水をかけられ苔を被ったお不動さんは、今でも地元の人に愛されている。

北府不動明王に会いに行く

北府不動明王
■**住所**：福井県越前市北府2-2-23　福井鉄道・北府駅近く

歌碑

春なれど しらねのみゆき
いやつもり とくべきほどの
いつとなきかな　紫式部

武生に滞在中の紫式部に当時の婚約者・藤原宣孝が「会いたい」と歌を贈ったが、式部は「春になりましたが白山の雪のように、私の心もいつ溶けるかわかりません」と、素気なく返事をした。

歌碑に会いに行く

紫式部公園　■**住所**：福井県越前市東千福町369

一般財団法人 三谷市民文化振興財団
助成団体募集!!

募集期間：2016年10月1日～11月20日
※応募状況により延長する場合がございます。

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2016年度の助成団体の募集を行います。

▶募集の要領

●助成の対象分野
・ボランティア活動
・スポーツ活動
・市民文化活動

●助成の対象となる団体
■営利を目的としない次の条件を満たす団体
1．福井県内で活動している団体
2．会員が5名以上の団体
3．設立1年を経過している団体
（2015年10月以前に設立したもの）
4．特定の資格・経歴等の条件を必要としない、個人で加入できる民間の団体

●助成金額　1件あたり約20～30万円
（前年度までの上限50万円より変更）

●応募締切日　2016年11月20日
（当日消印有効ですが、なるべく早めに提出ください。）

●結果連絡　選考員会による審査で決定し、2016年12月末までに団体代表宛に連絡いたします。
（採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。）

●助成金贈呈時期　2017年1月上旬

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを！

★ホームページから募集要領を読む
三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス
http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html
または検索エンジンで↓

三谷市民文化振興財団　検索　クリック

★お電話で募集要領を取り寄せる
☎0776-20-3188　（一財）三谷市民文化振興財団

三谷市民文化振興財団の助成団体

福井市

保護者や他機関も一丸となって子どもたちを支援する「NPO心の健康相談室・こだちのもり」

■連絡先　こだちのもり　☎080-6353-4543

ここは、発達障害やうつに苦しむ子どもたちを支援するための相談室。カウンセラーの熊谷香菜江さんは30年以上勤務した病院を定年退職後、患者家族などからの強い希望もあり、NPOとして活動を存続することを決めた。病院勤務時からの各関係機関との強固なネットワークを駆使し、相談室だけの枠にはまらない、柔軟な対応に努めている。

例えば就職の紹介先に連絡を入れるだけでなく、その場まで一緒に足を運び、職場がその子に適しているかを確認している。また、保護者が適切な知識や経験を共有するために勉強の場を設け、子どもを含めた家族への理解を深める助けをしている。子どもの健康回復と自立を願って、総合的な支援を提供している。

福井市

障がいのある子も自由に楽しく遊べる場所を チャレンジド乗馬サークル「ドルチェ」

■連絡先　ドルチェ 辻携帯　☎090-1392-4659

「ドルチェ」は、障がいがある子どもが馬との触れ合いを通じて心身ともに成長することを目標に、あわら市にある乗馬クラブ「パ・ドゥドゥ」で活動を行っている。

季節の風とともに馬の息遣いを感じながら、高い位置から見る世界は気分爽快。馬上の子どもたちだけでなく、彼らを見守る大人たちにも笑みがこぼれる。

また、代表を務める辻清張さんは子どもに携わる理学療法士。バランスが取りづらい子どもたちのためにクッションを開発。介助する人の手が減ることで、より馬の揺れを感じるようになり自信にもつながった。

「ドルチェ」は、障がいのある子どもと、その兄弟や両親が、馬や自然と一緒に過ごせることができる貴重な場となっている。

ブンカのカガミ

越前箪笥のキャリーバッグ。箪笥に車輪がつき、持ち手があり、引いて運べる。箪笥を持ち歩くという斬新なアイデアと、装飾金物が目を引くレトロな趣は、全国ネットのテレビ番組で紹介されるやいなや、新聞や国内外のネットニュースにも次々と取り上げられ、大きな話題を呼んだ。

制作者は越前市に工房を構えオーダー家具を手掛ける山口祐弘（ゆうこう）さん。「平成25年に国の伝統的工芸品に指定された越前箪笥をアピールするために作りました。物珍しさでもいい、知らない人に見てもらう入口を作りたくて」と話す。

伝統工芸の継承者として注目されつつも、本人は常に家具と職人が生き残る道を探る日々。県外の展示会へ積極的に出店し、来場者の声を拾う努力を怠らない。「お客様にどう使いたいかをお聞きして、イメージを形にする力が私たちに求められています。実現のために高度な伝統の技と知識が必要。越前市で家具作りに携わり、いかにこの街の職人の技術レベルが高いかを実感しました」。

一方、和家具の市場は縮小傾向にある。生活スタイルの変化や職人の減少、そして高価な伝統工芸品となると、一般人には手が届かない存在になりはしないだろうか。

「確かに二百年以上の歴史を持つ越前箪笥は、コレクター要素が高く実用的ではありません。しかし今の生活に合わせたリメイクはできます」。インテリアと実用性を備えた調度品になれば受け入れられる、と再構築を考え、「大事なのは伝統に頼らないこと。昔と同じ物を作るのではなく、技術と魂を引き継いだ家具にすればいい」と優しい口調の中に力強い意志を含ませる。例えば冒頭の越前箪笥のキャリーバッグは、金具をピンク色に塗装し、女性らしい印象に生まれ変わらせた。

伝統の背景をふまえて、新しいものを生み出す。それを職人自らがインターネットなどを使って発信できる時代だ。山口さんのように形や決まりに捉われることなく、柔軟な考え方で作ることが伝統の継承になるのかもしれない。

越前箪笥の伝統技法と魂で現代のニーズをくみ取る家具作り。
山口 祐弘

●やまぐち・ゆうこう／1975年越前市生まれ。県外で機械設計の職や家具メーカーを経てUターン。越前指物工芸の親方のもとで修業後、独立。「福井七人の工芸サムライ」所属。ファニチャーホリック代表。

越前箪笥の金物をあしらったバレッタ。百貨店からの依頼で制作。和装にも普段使いにもできるデザインだ。金具をアクセサリーに生まれ変わらせた。

「箪笥でかばんを作れないか」というアイデアから制作。軽量化、機内持ち込みサイズを実現。国内外からすでに受注がある。